

NPO活動推進フォーラムやまがた大会 第4分科会

明日からの行動計画

より良い協働が推進されて、より良い問題解決ができる自治体・地域にするため、まず明日から、自分がどのような具体的な行動を行うか、または何を改善するか。

行政とNPOの相互理解を深める（話し合いの場を設ける、情報を収集する、情報開示をする等）

行政	協働の相手方であるNPOの方に、疑問に思っている事はお互い質問しあうことを持ちかけてみたい。行政がNPOにいろいろ疑問を持っている事にNPOが気付いていないなら、それに気付いてもらうことも必要だし、行政もNPOが行政のどんな点に疑問を持っているのか知ることが必要。
行政	話し合いながら企画立案するのは、手間がかかること、面倒な事と敬遠しがち。だけど、そのプロセスこそがエンパワメントのために必要なこと。（行政にとっても、NPOにとっても。）億劫がらずに、話し合いのテーブルにつける様になりたい。
行政	地域の人々に何をやろうとしているか、やりたいかを話し協力を求める。
行政	CBに関する庁内、市民活動団体との連携を深める。
行政	相手との連絡をもっと密にしたい。メールより電話、電話より対面。
行政	<p>協働「NPOと行政が一緒にすること」</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>互いに知り合い、話し合う機会を作る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政職員がNPOが集まる場に足を運ぶ仕掛けをつくっていく。（県民交流センターで打合せ、会議、研修などを開く、開催を呼びかける） ・事業を作る話し合いは難しいので、施策を一緒に考えるような制度を充実させていく。
行政	<p>行政は公平・中立・平等が原則で何かのアクションを起こすのにもその説明責任が求められる。そうした中で重要となってくるのが自治体の計画（プラン）、プログラム、戦略であり、それを基にした施策を単年度予算を基本とした事業で行動に移していく。ただ、そうはいっても市民のニーズと満足度の中で様々な優先順位が設定され、すぐに効果の出ない（見えにくい）ものは後回しになったり、予算が減らされたりする。その効果の出にくい事業の一つが「協働の推進」ではないか。ただ、豊かな地域社会の実現には”市民の自発的・自主的な公益的活動の活発化”は欠かせないので、長期的な視点にたった市民活動の必要性を訴えていくことを社会的ムーブメントにしていくのが大事ではないか。（マスコミ等も含めて）→社会的使命感の醸成</p> <p>行動計画</p> <p>協働と一言と言っても、各地域によって状況・条件は様々なので絶対的なものではない。</p> <p>そこでまず、「自分の地域では、どこをどうすればもっと良くなるのか」を全員で共有するための確認作業・見渡しの場を設定することが行政・NPO共に大切だと思う。（協働は、あくまで手段だということを唱え続け、数年後にはそれが当たり前になっていることを目指す。</p>

行政	<p>協働担当課は、協働ありきで安易に考えてしまう傾向がある。また、協働担当課以外は、協働についてやNPO、市民活動団体の事を知らない。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「協働＝地域の課題解決」 これを行うことを再認識し、行政とNPO双方で考えるきっかけが必要。</p> <p>行政、つまり各部課にも正しい認識をしてもらうことが事業の推進には不可欠。（敢えて協働担当課が無くてもできるべきもの）</p> <p style="text-align: center;">+</p> <p>行政の事（行政のしくみ、事業内容）をNPO等に理解してもらうため、集まる場を設ける。NPO連携もここでできる？</p> <p>洗い出すには、中間支援がキーマンとなるのではないだろうか。</p>
行政	<p>市民活動推進課ができ、協働の指針ができ、情報サイトができ、そして今年6月、推進（支援）センターが出来ました。しかし、一番大切な、お互いの（NPOと行政）顔が良く見えていないというのが現状（課題）のように思います。重徳さんの言われていた“運動論”のひとつとして、まずは、気ままな交流会（NPO、行政、企業 etc）の開催から始めたいと思います。</p>
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・職員に対して協働に向けた取組みの必要性を理解してもらうための研修等を実施する。 ・NPOを大きく分野毎に振り分け、その中で取りまとめ役を作る作業を支援センターにお願いする。 ・上記の情報を担当部局に提供し、お互いが参加する話し合いの場を設置するサポートを行う。
行政	<p>NPOが地域課題としてとらえている事を行政の職員が聞くことのできる場の提供を行っていくこと。</p> <p>→NPOの活動の場に出向き、話を聞く、対話を重ねる、お互いのニーズ把握を行う。</p> <p>→NPOの協働アイデア提案会、発表会の場を提供する。</p> <p>→行政の事業担当課、担当者にNPOの熱意、アイデア、ニーズetcを伝える。</p>
行政	<p>市民からの声を聞くことが大切と思い、NPO団体との交流会を持っていきたいと考えます。</p>
行政	<p>共通の課題を見つけていく→交流の場が大事</p>
行政	<p>ボランティアでも、NPOでも、行政職員でも、興味を持てるような簡単なテーマで、一緒に話し合える場（共有する機会）をもちたい。そういう場をセッティングし、一人でも多くの方と問題点について、どのようにしたいか、してほしいか、どう協力しあえるか意見をかわしたい。どんなふうに考えているのか聞いてみたい。</p>
行政	<p>NPOが必要としているもの（人・モノ・カネ・他・・・）（短期・中期・長期）を把握する。そのためにはNPOの情報が必要。（話しを聞く）</p>
行政	<p>現在、協働事業で関わりをもつNPOについて、もう一度、事業提案書や事業報告などを読み返す。そのことにより、その事業により何を解決しようとしているのかをあらためて確認したい。</p>
行政	<p>行政はNPOを知ることが必要なので、そこから始めたい。行政の政策で対応できている境界の外にどのような課題があって、その為に活動しているNPOを理解していく必要があると感じる。</p>
行政	<p>本市の市民活動センターの役割として、センターの利用を求める団体のみでなく、より多くの団体・意識のある人の情報収集に取り組めるよう進めたい。</p>

行政	<p>行動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域でがんばる様々な活動団体（NPO、自治会、地区社協など）に取材あるいは参加する。百聞は一見にしかず。 <p style="text-align: center;">↓</p> <p>団体、活動情報をつくる。行政内部、地域にPR。</p> <p>理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体のことを地域の多くの人に知ってもらうことは、団体にとっても励みに、地域にとっても、新たな発見や地域に対し愛着をもつ人が増えるのではないか。行政職員にも啓発すると団体への理解が深まるのでは。そして、協働といわずとも、住み良い地域を自分でつくる地域性ができるといいなあ。
行政	協働による取組みをすすめる時は、関係者双方が課題、目的を共有し、相手のことをよく知ることが大切であり、相手方が行政を理解するため、その意味で行政は、自らの仕事の進め方や情報をもっとオープンにする必要がある。
行政	お互いを知るためには、まず自分をもっと出していきたい。
行政	実績と成果を開示し理解を求める。
NPO	行政の方を理解し、歩み寄る努力をする。
NPO	お互い共通課題を見つけ、進めていく。
NPO	行政と市民活動団体との話し合いを開き、行政にも協働できることを検討していただく。
NPO	協働ーNPOと行政が手をつなぎ仲よくなるのが、とつても大切だと思う。お互いに相手に敬意を表し、にこやかに笑い、そしてお互いに理解しながら『問題解決行動』を行いたいと思います。 そのために、情報の共有＝話し合い＝コミュニケーションをはぐくむ。この努力も必要です。 手をたずさえ、つないでいきたいですね！！
NPO	どちらが主ではなく、行政とくり返しひざを交えた「いろりばた会議」をして、思いを一つにしていく。
NPO	NPOと行政との対話と場所を作る。
NPO	縦わり行政各課間の対話と場所を作る。
NPO	行政の方と手を組める相手を見つけ、長期的計画でコミュニケーション、方向性、継続力など話す場の設定。
NPO	来年度の私達NPOの事業計画に”NPOと市（行政）の意見交換会あるいは協働アイデア提案会”をしっかりと入れ込むため、企画をねりあげる。→市の担当者とも話し合いを始める！！
NPO	7月～8月に1回、行政の仕事出し、課題を出し合い、協働の事業にした方が解決しやすいものを洗い出す。
NPO	協働事業を進めるにあたっての行政側の事（組織等）をもっと知る、理解する。
NPO	相手を知る、学ぶ。（楽しく）
NPO	自身のNPOの情報を正しく、広く公開する。
NPO	NPOの情報開示。（身近な市内において）・NPOとしては、一緒に活動できる団体や人材情報がほしい。
NPO	活動内容の情報開示。（易しく丁寧に）
NPO	行政との協働事業成功例をHPに出す。

NPO	現状の課題をはっきりと提示する。
NPO	既にある社会資源である公共の新聞をフルに情報共有に活用します。
財団	もっと自分がサポートすべき対象者を知ること。（NPO法人・地域づくり団体等）
財団	行政がNPOを理解するために、どんな情報開示・発信がいいのかを伝えるセミナーの開催。
財団	NPOが行政を理解するために、行政のNPO推進担当者によるブログの開設支援。
企業	コミュニケーションの場をつくること。 公式ではなく、インフォーマルな場、例えばイベント等で一緒に時間を共有することをすすめたら良いと思います。
企業	可視化の方法が重要では。行政として地域課題をHP、広報誌に掲載する。NPOとして、専門能力や熱意を職員に会って伝える。相互理解からスタートするのでは。
行政の意識改革を進める（職員研修を実施する等）	
行政	職員に対し、NPO（市民活動）に対する正しい認識を持ってもらう必要がある。（研修の実施）
行政	行政内部に向けて、「NPOはこわくない」「協働は楽しく実施する方法がある」という事を伝え続ける。
行政	NPO・協働について、職員の理解が深まるよう、機会を増やしていきたい。今年度から、研修とNPOへの現場見学を行っているが、フォローアップの機会を設けることで実践により近づけたい。
行政	行政内部の「本当の協働に」対する理解を促進する。
行政	市民との協働で仕事がうまく進められることもあるということを、庁内にもっとアピールしたい。
行政	市民団体と行政の協働について、行政内部の共通認識を持つ必要がある。
行政	協働の指針はあっても、それが市内部に十分に理解されていないので、職員向けの研修会などで一層の周知を図る。
行政	行政の中に協働ということ（意味）をもっとわかっていたいただきたいと考えます。
行政	このNPO活動推進フォーラム（2日間）で学んだこと、考えが変わったところ、心動かされたことなどを参加できなかった方（行政職員、NPOで働くスタッフ、家族等）に話し、多くを伝えたい。→もっとたくさんの人々に、「自分たちが当事者である」という意識を持つよう、広めていきたい。
行政	協働担当課以外の他課職員への協働概念の普及。
行政	行政は担当の部署のみでなく全体で協働の理念を共有する必要があると感じるので、今日知り得た情報を共有していく活動から始めたい。
行政	組織内を説得する力、協働の効果をアピールできる力を身につける。
行政	行政の協働推進全般を担当する課は、多様な主体と行政との協働を進めるための橋渡し役となるべきである（事業担当課の中間支援）
行政	行政職員は、所管している法令・制度といった事業の単位だけでなく、もっと広い範囲で、かつ中長期的な視野をもって施策・政策レベルで物事を捉え、考えていくべきである。
行政	なぜ協働するのか、目的を明確にする。
行政	長いスパンで「協働」について考える事を意識する。

行政	行政内の横のつながりを強められるよう、意見交換会の場を持つ。
行政	そういえば色々と研修をうけてきて、行動できてないような焦りがあるので、ふり返りをする。(復習)
NPO	行政内部でのNPO理解を進めることの提案。(NPOから行政への提案)
NPO	日頃関わる担当行政職員の方に今回のフォーラムの事を話してみます。全国的には、こうだった、という事例と〇〇県の状況を比べれば、少し体制も変えてもらえるかなと思いました。
協働を推進する制度等を整備する	
行政	協働の受け入れ体制(制度、マニュアル)を整備する必要がある。
行政	担当課として想いを引き継ぐ仕組みを作る。まずは基本・歴史から押さえる仕組みづくり。
行政	制度、仕組みに実効性をもたせる。
行政	何をすれば協働は進むか？ <ul style="list-style-type: none"> ・NPOと行政がお互いを知るためにランチミーティングを定期的で開催する。 ・模擬協働体験をできるような、NPO、行政参加のワークショップを行う。 ・事業に際しての企画・実施スタイル、振り分け指針を作成する。 (行政側は新規事業や既存事業の実施に際し、どんな課題を、どういう体制・仕組みで、どう実施していくか、その際に協働の余地があるか、十分検討していないかもしれない。公共の主体は、行政以外にもいることを認識した上で、協働というスタイルについても一考する事を義務化したらいいのではないか。)
行政	市民提案制度の見直しに取り組みます。 協働事業の提案制度について <ul style="list-style-type: none"> ・協働の基盤づくりとしてのNPO支援とくらしの課題を解決するために行政との協働が必要な事業提案を分けて考える。 ・補助事業期間を単年度から3年程度に見直す。
行政	公募提案型協働事業は協働を目的にしているのではないか？手法となるように修正もあり？
行政	各部局に協働担当を配置し、協働を推進する。
行政	話し合いから生まれたアイデアを形にするために、さらにどんな力(金・人・他)が必要か？を考え、そこと連携・協働して、課題解決にむけた第一歩(しくみ(スキーム)作り)の調整をしたい。
NPO	協働のしくみ(マニュアル、会議、講習)を市民と市職員で共同でつくっていく。→実行をチェックする。
NPO	住んでいる自治体の市民協働課へ来年度、協働で取り組みたい事らについて相談に行く。(NPOへのインターン制度づくり)
行政職員がNPOの活動に参加する	
行政	NPO団体の活動を実際に見たり、参加したりする。
行政	職員自身が町内会活動や市民活動にも積極的(主体的)に参加し、活動への理解を深める。
行政	自らも問題意識を高めるため、団体に所属する。
行政	自分自身、市民活動等に参加してみる。→他の職員への参加を促す。

行政	<p>「職員の市民活動への参加を促進する」 現状・市民向けには、市民活動を体験するインターンシップ制度がある。 ・職員向けには、体験システムが無い。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>職員が市民活動に参加している例が少ない。 行動・庁内「職員提案制度」に提案書を提出する。 「やってみよう地域活動」～インターンシップのすすめ～ ・受入れ可能団体に一定期間、市職員が体験できる仕組みを構築する。 ・体験をポイント化し、昇格試験の判断材料にする。 ・体験前には、一定期間の研修を義務付ける。</p>
NPOの意識改革を進める（学習の機会をつくる等）	
NPO	中間支援のNPOとして、協働の学びの機会を年2回持つ。
NPO	NPOの人を対象に行政の持つ困難な課題、解決すべき課題を学習する機会を年1回もつ。
NPO	協働の理念・役割を再認したことを先ず組織の構成員に伝え、足もとから理解を深めることが、組織の活力につながると思われる。このフォーラムのていねいな伝達をしたい。
NPO	地域の「NPOネットワーク」で、このフォーラムに参加できなかった方々（行政職員も含め）を対象に伝達講習会のような集いをもちたい。
NPO	共に働くメンバーにNPO（今日学んだこと）を伝え、自分たちにできることは何か、問題について考え、整理し、具体的な行動に移していくための手立てをさぐっていききたい。
NPO	協働は面倒なことではなく、問題解決の1手段であることを他団体に理解してもらえるように紹介していく。
NPO	地域のNPOが自分達の活動が充分、協働に値している事を気付いてもらうため、近々、開催予定の関係者会議（障がい福祉分野）で補足でも良いから話していこうと思います。
NPO	日々、専門性を高めるため、研修会などに参加する。
NPO	活動するにあたり、他団体との交流により、情報の収集と認識・スキル等のレベルアップをしていく。
協働事業の取り組み方を変える	
NPO	委託事業のスキームを見直し、市民力のエンパワーメントに努める。
NPO	行政職員とNPOで一緒になって事業の企画から活動まで行う。
NPO	受託事業について、行政と対等な立場に立って協議の上、受託するよう努力する。
NPO	常に双方が緊張感をもっていける期間（2年とか3年とか）に限定した活動をします。
NPO	事業に必要な予算の組み方を、当事者性を持ち取り組む。
NPO	”お金がなくともやる”と自分達が言ったことは、文句を言わずに、グチらずにやります！！
NPO	行政への不満もあるけれど、受託したことは文句を言わず、やりとげたい。

NPOの活動の目的を再確認する	
NPO	改めて目的とメッセージワードを内部で確認する。
NPO	私たちは何をしたいのか？何ができるのか？5年後、10年後の目的を行政と共に考えていく。
NPO	”私達は一体何をするために、何をやりたくてNPO法人になったのか”忘年会の時に改めて皆と話します。
NPO	自分の事業所が、今「何をしたいのか？」を全職員、関係者、理事と一緒に話し合い、”具体的に文章でまとめたい”。それに伴い、今日から出来る事や可能性を見つけたい！！（自分は”関係無い”率を減らしたい！！）
NPO	活動暦が長いと、当たり前になってしまっているところを地域の課題解決という視点で再度、整理し、自分達の活動を振り返ってみます。本当に市民の力が育っているかがポイントか・・・？
NPO	自分たちのNPOの理念を確認し、行政に対しても提言していけるくらいの強さ（情熱）をもっていきたい。
NPO	有償ボランティアとして働いているけど、NPOの目的をよく知らず働いていたように思うので、どういう目的なのか調べ、納得してから働きたいと思う。
NPOの活動の方法を見直す	
NPO	法人の事業の見直しをし、長期計画を作成し、整理しながら活動していく。
NPO	組織の内部統一性について見直しの時期と思われるので、個々の会員に再確認していく。
NPO	取り組んでいる事業を、協働で取り組んだ方が良いものと、そうでないものに分ける。
NPO	「一人の人が何かを背負いすぎなくても、まわっていける団体」というシステムを考え、気軽に(?)より多くの地域の人達がかかわれるようなうずを作っていきたい。
NPO	思いだけを語らず、社会問題(3年後)を見すえて、自分にも問題はあるので、協働を考えていく。
NPO	自分のやりたい事(目的)を声に出し、共感する仲間を持つところから始める。
NPO	ボランティアは無償だと行政の方から言われ続けてきたが、有償ボランティアをめざし、育った人材が抜けていかないように考えてみたい。→それだけでなく人材不足である。
NPO	無償から有償事業化へもっていく。(せめて1人分の人件費)
NPO	地域の企業(商店、スーパーetc)の利益・PRを考え、寄付をもらえる形を考えてみたい。
NPO	会員650個人・団体にします。
NPO	任意団体からNPO法人へ。三者の形式的コラボから融合、一元化へ。
地域のニーズを把握する	
NPO	地域のニーズに合致しているテーマを選びます。
NPO	地域のニーズを見直す。
NPO	利用者のニーズを把握できるようになる。
NPO	子育て支援センターで働いているので、お母さん達の思いを、意見を聞ける人になりたい。

市民のエンパワーメントを強化する	
行政	事業を企画する時から住民に参加してもらい、色々な意見を調整し納得した上で物事を進めていく。
NPO	市民が生活しやすい地域をつくるためには、市民が問題解決力をつけることができるような支援をしていくことが、NPOの役割になっていると感じた。その上で、住民だけでは解決できない部分を行政と共有していくことで、お互いに要求し合うだけではない協働を進めることができるのか、と感じた。
NPO	無視民→市民への成長を促す戦略をつくる。
NPO	ネゴシエーション、ディベートの習慣（コミュニケーション能力）を中学・高校の教育の中で身につける。
財団	”人と人をつなげること”が自分の仕事の根幹だと改めて確認した。常にそう思い県民同士の輪を広げたい。
NPOの支援を進める	
行政	補助金を出して終了するだけのNPO支援から、よろず相談やネットワークづくりに至るまでの総合的な支援を行えるようにする。 →行政職員の意識向上のため、研修や協働マニュアルの作成を行う →現場主義に徹し、NPO活動やイベントに積極的に参加する。
NPO	各市民活動団体の行動目標（具体的なこと）を調べ、その支援策を考え、具体策をさがす。
NPO	市民活動支援センターの設置へ、必要性について、市民活動団体代表者の話し合いを開いて、行政へ要請したい。
財団	今ある事業を続けていくことも大切だが、新しい事業を提案・実践していくことが県内のNPOへの支援につながると感じた。「ムリ」と決めつけず行動することが第一歩だと思う。
その他	
企業	社会問題となっている事、これから問題となる懸念があるものについてどうして問題が発生するか調査（大規模なもの（量的）ではなくても本質が見出せるヒアリングなど（質的））を行なう。現状分析したものを関係団体・機関（役所も）に提案する。具体的な解決策を提示して、いろいろな意見をもらうことで取組の必要性和体制づくりのきっかけが生まれる。行政の担当者の中に推進役となりうる人物を発掘する。（同調者を作る）
大学生	〇〇市で「音楽都市」に向けて何か取り組んでいきたいと思っているのですが、どれだけの人が別個にイベントだったり、取組をしているのか、実際に見てまわろうと思っています。（昨日の内容での「調べる」ということからの発想です・・・）
大学生	学生で、公務員を目指しているので、意識の高い公務員と会えて勉強に対するモチベーションは上がりました。なので、勉強がんばろうと思います。